

資料2-2

鶴見川水系流域治水プロジェクト【位置図】(案)

～全国でも有数の都市河川における流域と一体となった治水対策の推進～

●グリーンインフラの取り組み 『～流域の水循環の健全化と都市河川鶴見川に現存する特徴的な生物の生息・生育・繁殖環境及び水域における生態系ネットワークの構築～』

○鶴見川は、源流を東京都町田市に発し、政令指定都市である神奈川県横浜市、川崎市等を流れる都市河川であり、流域の市街化（流域内人口密度8500人/km2 全国第1位）により、保水・遊水機能が急減し、浸水被害が頻発したことから、流域を水害から守るため昭和55年から総合治水対策を推進してきた。下流部では矢板護岸を主体とした単調な断面となっており、動植物の生息・生育、そして繁殖環境には必ずしも好適でない状況にある。

○水循環の健全化をめざす鶴見川流域水マスタープラン（H27.12改定）に基づく流域再生を理念として、かつて昭和40年代に連続的に形成されていた干潟、湿地等の自然環境を確保するため、今後10年間で過去に見られた特徴的な動植物の生息・生育・繁殖場の各機能を確保する場を整備し、浅場・水際環境の整備により連続性を確保するとともに、地域と連携したかわまちづくりや水辺の楽校の推進等、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取り組みを推進する。



鶴見川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ】（案）

～全国でも有数の都市河川における流域と一体となった治水対策の推進～

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中長期	
グリーンインフラ の取組	自然環境の保全・ 復元などの自然再生	干潟の整備、湿地環境整備 水際の多孔質構造の整備	京浜河川事務所	→	
		動植物の良好な生息・生育繁殖環境の場の保全・回復	神奈川県	→	
		防災調整池を活用したピオトープの形成	横浜市・町田市	→	
	健全なる水循環系の 確保	農地における保水・浸透性を高める取組	横浜市	→	
		休耕田による調整池機能の整備	町田市	→	
		雨水浸透施設の整備 雨水浸透施設の普及啓発	京浜河川事務所 東京都、神奈川県、 町田市、稲城市、 横浜市、川崎市	→	
		緑地の保全	東京都、神奈川県、 町田市、稲城市、 横浜市、川崎市	→	
	治水対策における 多自然川づくり	断面の工夫による浅場の整備	京浜河川事務所	→	
		生き物に優しい、旧河川を活かした川づくり 良好な河畔林の保全	東京都	→	
		多様な生物の繁殖環境等を配慮した護岸の改良等	神奈川県	→	
	魅力ある水辺空間、 賑わい創出	鶴見川かわまちづくり	京浜河川事務所 横浜市	→	
		ふれあい促進拠点、親水施設の整備	東京都	→	
	自然環境が有する 多様な機能活用の 取り組み	鶴見川流域センター（鶴見川多目的遊水地見学会、生き物鳥 観察、ウォーキング等） 地域連携による学校出前授業 河川環境分野におけるICT技術（3次元データ）の活用 在来種の保全と外来種駆除	京浜河川事務所	→	
		小中学校における河川環境学習 水辺の楽校	川崎市、横浜市	→	



※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。